

鏡池だより

第 5 4 号
令和 5 年
(2023年)
1 月・2 月・
3 月
発行：編集
岡崎別院
輪番 福田 大

薄俗にして
共に不急の事を諍う
く仏説無量寿経巻下く

光寿無量

今年も皆様方と共に、仏法を聞く御芽の出ることを念じ上げまして、御芽出到（おめでとう）ございます。

昨年、十一月七日、別院御門徒の通夜を終え帰宅すると、自宅の前に救急車が止っていた。初めは、ご近所の何処かで搬送される人がいて止っているのか、と思ったが、自宅前には、不安げな顔をした三男が立っているのが見えた。「どうしたんや」と聞くと「じいちゃん（私の妻の父）が腹痛を訴えたので救急車を呼んで、じいちゃんと付き添いでお母さんが乗って、救急隊の方々が搬送先の病院を探してくれている」との説明を受け、ようやく事態の全貌を把握できた。三十分ほど待ち、搬送先の病院が決まり、救急車の後を追いつ、搬送先の病院に三男と到着。すぐに検査がはじまり、三〇四時間待ち、検査結果の報告を受けた。「胆石が胆管に詰った形跡があります。それから胃に何かできていますね。どちらにしても精密検査の必要がありますので、入院して下さい。」とのことで、手続きを済ませ、午後十一時頃に帰宅した。

帰宅後、長男、次男にも事の内容を伝え、「どうすべきか？」

を各自に考えることが、我々に突き付けられている問いであり、じいちゃんと真向かいになる機会であることを話した。それから一週間後に検査結果の説明を受けた。「胆嚢（たんのう）のう」の摘出と胃癌であるために胃の半分以上の摘出手術を行う」ということであつた。

先ず、家族としては、高齢であるのに手術に耐えることができるのか。手術後、リハビリをして、歩行が出来、いままでのように同居できるのか、という問題が私の生活の只中に山積となつた。

顧みると父とは、二〇一九年の二月に妻の母が亡くなつたのを機に同居をはじめ、その間に父は、脳梗塞になり、リハビリ期間も入れ、約半年間の入院を余儀なくされた。そのなかで、いつも父に寄り添い介護をしている妻の姿が、ここ三年間の家族の日常の光景となつている。

亡き我両親のこと、子育てのこと、仕事のこと、どの事柄もが、私の生活の事実は、六窓一猿（六つの窓がある箱の中に入れられた猿の様子）である。まさに、一難去つてまた一難という山積した問題に振り回され、日々を忙しく生きていることに他ならない。

「忙しいということとは／怠けている証拠です」とは、安田理深先生のお言葉であるが、まさに目前にある問題に振り回され、対処の連続の毎日だけで、自らの人生の課題と真向かいになることなく、人生の諸問題にのみに軸足を置く生き方ではないかと、痛切に感じさせられる。まさにその事実を、金子大栄先生は「人生における問題と／人生そのものの問題とは違う」と、お教え頂いていることと、私自身は頂いていることである。

庭園



庭園北西側から池に流れる小川が整備されるなど、少しずつ新しい景観が見えてきます。今後メンテナンス用車両が入ることも想定し、石畳の補強作業が進んでおります。



↑小川予定地の石積補修
庭園内の小川の底にタタキを敷いていただきました。
ここに池の水を流す予定です。



↑石畳の補修
この上に石を敷いていく予定です。

一〇三月の法座案内

「歎異抄」を読む／蓮如上人を訪ねて

一月十九日（木）
九時半〜

味読正信偈／蓮如上人を訪ねて

二月十三日（月）
九時半〜

鏡池の集い／蓮如上人を訪ねて

三月十五日（水）
九時半〜

平素より当院法座「三日講」にご参加、ご協力いただきましてありがとうございます。

二〇二三年の三日講予定については、現時点では四月までを予定しております。四月以降の三日講開催の詳細については、当院本堂工事の状況によって、追ってご連絡させていただきます。

皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

本年度の左記の法要は、別院総合整備事業に伴い、現在の仮設の建物での職員のみでの内勤めとさせていただきます。

一月 修正会
三月 春季彼岸会

【列座のつづき】

先日、自坊の境内にあつた梅の木が腐り、伐採が決まりました。幼いころは入学式など節目には半強制的に梅の木の前で記念写真を撮られて嫌でしたが、それが切られるという不思議と寂しい気持ちになります。

様々な御縁の中で生かされている私ですが、自分に身近なことほど、失うまでなかなか気づけないものだと感じるものです。（松岡）

宗史蹟親鸞聖人岡崎草庵跡
真宗大谷派（東本願寺）
岡崎別院
〒606-8335
京都市左京区岡崎天王町26
電話 075-771-2921
FAX 075-748-1665
http://okazakibetsuin.com
info@okazakibetsuin.com

1

4

山門



↑築地塀内部
築地塀内には築地塀の倒壊を防ぐため構造補強を施す工事が完了しました。



11月末に屋根のかかった山門正面



山門瓦おろし後

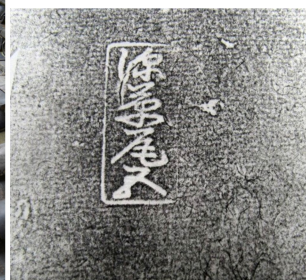
山門は十月から素屋根の設営、瓦のおろし作業が始まりました。おろしていただいた瓦を見ると、相当古いと推察される物から、補修した形跡が見られる新しい瓦もあり、その歴史が感じられます。

【山門瓦について】

山門の瓦について瓦師の方に調べていただいたところ、一部の瓦に「深草瓦五」の刻銘があり、おそらく深草五郎右衛門の江戸後期の制作であることが推定されます。当時は深草にも多くの瓦師がいたとのこと、山門建立初期の瓦であると思われる。



↑瓦が載っている山門修復前



↑山門に使用されていた瓦

茶室

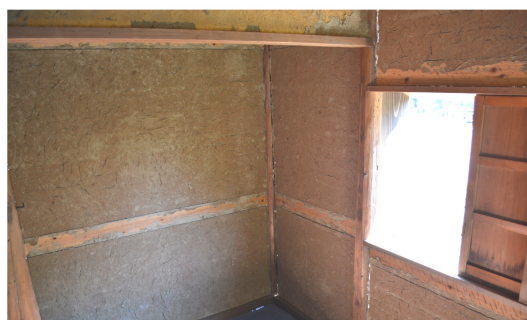
茶室の外壁部分には、焼杉板、杉皮を貼っていただきました。水屋部分には床下に空調設備を設置し、景観を損なわず尚且つ夏や冬にも対応できるお茶室になっていきます。周囲の石積みについては年末より石組の造作が行われます。



↑茶室北側内部



↑茶室東側外観



↑茶室南側内部

整備工事進捗状況

本堂

本堂の屋内の畳下床板が貼られ始めました。本堂を支える束柱は、腐食の激しい箇所は補修が施され、多くの人が安心して参詣できるよう工事していただいております。東西側の増築部、北側後堂の増築部も壁が塗られ始め、少しずつ本堂の形が現れてきております。



11月上旬撮影



↑後堂
後堂は以前よりも北に80cm増幅され、日々のお給仕や法要時の出仕がよりスムーズに行えるようになります。また、宗祖の御厨子設置部分が以前より45cm広くなり、余裕をもってお荘厳ができるようになります。



本堂西側



本堂東側



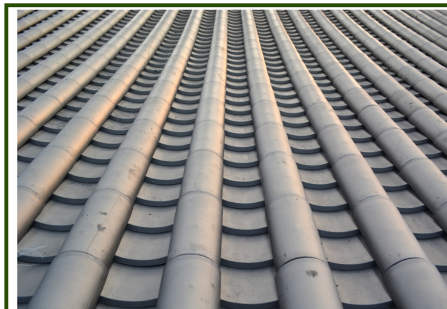
本堂参詣間より内陣



本堂西側

本堂屋根

以前は損傷の激しかった瓦をすべて新調の瓦に葺き替えて頂きました。上層部は写真のようにかなり葺き替えが進んでおります。雨漏りの原因であった瓦の全葺き替えと枯木（はねぎ）は損傷部分を補修・新調していただき、今後は風雨雪にも耐え得るようになります。



↑新しく葺き替えられた瓦



↑本堂上層屋根正面



↑下層屋根瓦を載せる為の板張の工事中



↑本堂上層部東側